

「改ざん」多数に要求

大者 医師女 疑容 東京 尾瀬

看護、手術、装置記録 自らも書き換えか

東京女子医大病院(東京都新宿区)で心臓手術を受けた平柳明香さん(当時十歳)が死亡した医療過誤事件で、証拠隠滅容疑で逮捕された同病院循環器小児外科講師、瀬尾和宏容疑者(46)が、手術ミスを隠すために看護師長(54)や臨床工学士(3)のほか、複数の手術スタッフに看護記録などの書類改ざんを働きかけ

ていたことが警視庁牛込署特捜本部の調べでわかった。特捜本部では、瀬尾容疑者が自ら統括した手術のミスを隠すため、執ように隠ぺい工作を図ったとみて追及している。

瀬尾容疑者は手術中のミスを隠すため、看護師長に対しては看護記録の改ざんを、また、臨床工学士に対しては人工心肺装置の記

録紙の改ざんを、それぞれ指示していたことがすでに判明している。

その後の同本部の調べで、瀬尾容疑者は、執刀を担当した後輩の医師にも、手術後、手術関係記録の改ざんを依頼したことが判明。しかし、この医師は頑強に拒否したため、瀬尾容疑者は依頼を断念したとい

また、瀬尾容疑者は、集中治療室の看護記録について、複数の看護師に改ざんを依頼したが、これも断られた。結局、看護記録の改ざんは、看護師長が部分的に協力したが、看護師長も途中で改ざんを拒絶。残り瀬尾容疑者が、自分で書き換えていた疑いが強まっている。瀬尾容疑者は証拠隠滅工作を手術に関係した

医師やスタッフ、看護記録を作成する立場の看護師らに幅広く働きかけていたとみられる。

◆ 特捜本部は三十日、瀬尾容疑者を証拠隠滅容疑で、同病院循環器小児外科助手、佐藤一樹容疑者(38)を業務上過失致死容疑で、東京地検にそれぞれ身柄送検。また、看護師長と臨床工学士を証拠隠滅容疑で同地検に書類送検した。

女子医大小児心臓手術事故

改竄

2002年7月1日 読賣新聞